



MDP

2023 明治安田生命 J1 LEAGUE

2023明治安田生命J1リーグ第17節
@ 駅前不動産スタジアム

MATCHDAY PROGRAM
サガン鳥栖オフィシャルマッチデープログラム

2023 Season | Vol 12

06.10 [SAT]

19:00 KICK OFF
vs 北海道コンサドーレ札幌



©1996 CONSADOLE

FW
Yuto IWASAKI

29

指揮官のために

信頼を寄せてくれる

情報技術

「まだ、健太さんに全然、恩返しができていない」。昨季の最終戦となったサンフレッチェ広島戦後、岩崎悠人は自らの心境を語った。プロ7年目のシーズンはリーグ戦32試合に出場。自身にとってプロ入り後、J1の舞台上で初めて年間をとおして主力として試合に出続けたシーズンとなったが、満足感はほとんど得られなかった。川井健太監督が自分のことを信頼して起用し続けてくれたことは痛いほど分かっていた。ただ、ゴールやアシストといった自身の結果はもちろん、チームの順位も納得のいく数字は残せなかった。また、川井監督のほかにも個人練習や居残り練習で自分を成長させようと並々ならぬ熱量でアプローチをしてくれるコーチの存在などサガン鳥栖という環境において、岩崎は日々、期待を感じていた。京都橘高校時代からそのポテンシャルを高く評価され、将来を嘱望されてきた。しかし、思うように結果を残せない日々が続き、いつしか周囲からの“期待”はどんどん薄れていった。それでも、鳥栖で出会った指導者たちは自らの可能性を信じてくれた。そして、その成果が試合で出せるようになると「期待に応えたい」という思いは増していった。鳥栖に来た際、岩崎はこう言葉にしている。「感謝の気持ちをプレーで表現できるようにしたい」。昨季の最終節が終わった時点ではまだ北海道コンサドーレ札幌からの期限付き移籍の立場であり、来季がどうなるかは決まっていなかった。期限付き移籍元である札幌と期限付き移籍先である鳥栖。両チームへの思いがあるからこそ、冒頭の言葉とともに複雑な表情を岩崎は浮かべていた。その後、鳥栖への完全移籍が決まることになったが、移籍を認めてくれた札幌。そして、移籍実現のために努力してくれた鳥栖、それぞれへの感謝の思いは強い。「いまはサッカーが楽しい」。成長をさらに実感する岩崎のプレーは躍動感に満ち溢れている。今節は初めて迎える古巣との一戦。感謝の思いを誰よりもこのピッチで示す。

matchday program presents

宮島醤油DAY ~美味しいは、変わらない記憶だ。~